

## 反省からの学びと成長

社会福祉学部社会福祉学科 2年 河崎 大輝

活動先：NPO 法人 ゆめじろう

クラス：岡 多枝子 先生

### ①SLを通しての自分の成長と気づき

私はSLを行う上で目標を2つ掲げた。まず1つ目が、「自発的な発言・行動をする力を身につける」こと、2つ目の目標が、「幅広い年齢層の利用者の方とかかわりを持ち、卓上だけでは学べないことを学ぶ」ことである。目標に対して夏祭りを行うために、職員の方とミーティングをするにあたって、学生が何をしたいのかということ相談して、私たち自身の意見を職員の方に伝えることができた。しかし、伝えた企画に対しての内容が漠然としたものであったため、企画として取り上げられるものは少なかった。そして夏祭りの準備をするために、施設の利用者の方と関わる際、初めて対面した時、どのように接していいのか、どうしたら話せるのかということを考えるだけで、自分から行動に移すことができなかった。しかし、利用者の方から話しかけてくれたり、目が合ったときににっこりと笑ってくれたりして、人の温かさを感じるすることができた。

ここまでだけでは、目標は達成されず終わってしまったと思う。しかし、夏祭り前日に台風12号が上陸してしまい、夏祭りが中止になってしまった。ここで夏祭りにかわる施設でできる企画を私たち自身で考え、提案し、実行することになった。まず夏祭りに使うはずであったフランクフルトを活用し、利用者の方と一緒に作ることができる料理を考え、利用者の方それぞれができる仕事内容を割り振って、皆でつくりあげることができた。そしてもう1つ大きな企画として、学生演奏を行い、利用者の方、そして職員の方と一緒に歌を歌った。歌を歌い終わった後、一体感のようなものが生まれたと私は感じた。職員の方が、「皆で何か1つのことを行うということがなかった」と終わった後におっしゃっていて、このようなことが出来て良かった。このことによって、1つ目の目標である、「自発的な発言・行動をする力を身につける」ことが、失敗を通して学んだ反省点を生かし、目標を達成することにつながり、私自身の成長にもつながったのではないかと思う。

そして、2つ目の目標である、「幅広い年齢層の利用者の方とかかわりを持ち、卓上だけでは学べないことを学ぶ」ことは、利用者の方と身近で接することで、目に見えたり、頭で考えたりすること以外にも、気持ち・心で感じる人の温かさというものが多くあるのだと知ることができ、人とふれあうことの大切さを実感



することができた。また資格があるということは、その分野に長けていると証明できる。しかし職員の方を見ていると、資格がないということに関係なく、人間的な豊かさを利用者の方とかかわるうえで、とても大切だと学ぶことができた。職員の方は、どの利用者の方からも慕われていると私自身思うことがあり、人間的な豊かさは卓上では学ぶことができないのでとてもよい学びになったと実感した。目標には関係なく SL を通して学べたこともあった。それは、「リスク・マネジメントの重要性」である。私たちは、夏祭りは必ず行われるものであると考えていたため、材料を買ってしまった。しかし台風が上陸し、夏祭りを行うことができなくなった。ここで、『事前の対応として、損失の発生と同時にそれを相殺するような状況をつくること、すなわち「保険」をかける必要』があった。最初の話し合う段階で、夏祭りなどの企画をする時、今回のように自然災害で中止となってしまうこと、想定外の事態が起きることがある。それを想定することはできなくても「中止になる可能性がある」ということを事前に考え、そのリスクを最小限に抑えるための行動をすることは可能である。自分たちで何かを企画する時には、最悪の事態を事前に予測しそのリスクを最小限に抑えることが大切であると学んだ。また、『事後的対応として、優先度を考慮した、迅速な対応は重要になり、損失が連鎖的に拡大していくプロセスを、いかにして食い止めるのかが大きな課題』である。この点においては、別の企画に切り替え、実施できたのではないかと思う。

## ②活動を通して見えてきた地域活動や社会活動

私たちはデイサービス事業の中の「ひるじろう」での活動が中心であった。ひるじろうでは、生活介護や就労支援を行っており、障害がある人に対しての日中に集まれる場所を提供し、「自立と社会参加と自己実現」を目指している。

デイサービスの事業だけでなく、ホームヘルプ事業、子育て支援事業などがあり、対象としている人が、高齢者に限らず、障害者であったり、児童であったりと、幅広い世代への支援といったものが行われている。そのような幅広い世代へのニーズを充足させるために活動を行っていることがわかった。今日地域においての連帯感といったものが希薄化し、「住みやすい」生活を個人として求める人々が多い。そういった状況の中で、家族を支え、地域とつながりをもって、「人と人の絆」、「心のふれあい」、「自己実現」、「こころの豊かさ」などを求めているのではないのかと考えた。

## <参考文献・URL>

- ・ <http://www.yumejirou.org/index.htm>
- ・ 高橋滋ほか、「リスク・マネジメントと公共政策～経済学・政治学・法律学による学際的研究～」第一法規株式会社（2011）